

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。  
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:472 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。  
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:471 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。  
★JOSO脱プラ基金は注文番号:474 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

# COOP-JOSO News Letter

2021年8月3回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

## 東海第二原発 水戸地裁判決を伝えるチラシができました

3月の東海第二原発・水戸地裁判決を広く知って頂こうと、三つ折りのわかりやすいパンフレットができました。

このチラシは「難しい裁判の判決」を、「わかりやすく多くの方に伝えよう!」と、生協の組合員を中心に水戸から埼玉までの若いお母さんチームが作ってくれました。

原告団では36万枚を印刷して、そのうち22万部を原発周辺30km圏内の各世帯に新聞折込をいたしました(みなさんのカンパを頂いて)。新聞折込をした7月19日には水戸の方からも「原発の裁判を生協がやっているなんてめずらしいですね。エリアは?水戸まで配達してないの?」などの電話も頂きました。残り14万部は茨城から千葉・東京までの首都圏のみなさんの協力で駅頭や住宅地に配布して頂くことになりました。

常総生協は「二度と原発事故を繰り返してはいけない」と、この裁判に50名近くの組合員・生産者が原告となり、また100名近くが賛同人になって、生協が原告団事務局としてこの裁判を支えてきました。原告団会員になっていない組合員・生産者からもたくさんの支援を頂いてきました。

私たちの思いを裁判所に訴え続けて9年、ようやく「住民勝訴判決」(事故がおきたときの避難において住民の人格権侵害のおそれがあるので東海第二原発は運転してはならない)を得ることができました。

そんな常総生協ですが、新しい組合員さん・生産者さんもいらっしゃいますので、生協ではこのチラシを組合員・生産者みんなにあらためて配布して頂くことになりました。千葉県の中間の生協「なのはな生協」さんでも組合員7千名に配ってくれます。

一番水戸地裁では住民側が勝訴しましたが、原発を動かしたい被告日本原電(株)が判決を不服として控訴したことで、引き続き東京高裁で争われることになりました。日本原電(株)は裁判を「係争中」に棚上げしておいて、実際は再稼働の工事をすすめて来年の秋に起動(再稼働)しようとしています。その前に、県知事や周辺自治体に再稼働への同意を迫ってくるでしょう。

裁判所からの指摘を受け止めて原発はもう諦めて欲しいと思うのですが、「再稼働を強行」するような場合は多くの市民から声を上げてゆくことがとても大事になってきます。そのためにもこのチラシを活用して広く市民・住民が、判決でも言っている原発の危険性について知って頂きたいと思えます。

あわせて、裁判は東京高裁で続きますので一審判決を確定させるためにより多くのご支援頂きたく、原告団の「賛同会員」(年会費3千円)にもなって支えて頂けたら幸いです(申込は生協へ)。

(東海第二原発差止訴訟団 共同代表 大石)

.....キリトリ.....

### 東海第二原発差止訴訟団 賛同会員申込用紙

差止訴訟団賛同人になります(年会費3千円)

※カンパは別途、東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:471 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

組合員№ \_\_\_\_\_ コース名: \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_



## 2021.7.14 熱海伊豆山地区 土砂災害支援活動してきました！

2021年7月3日（土）に静岡県熱海市伊豆山で発生した土砂崩れにより、甚大な被害が発生しました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

常総生協では元職員の上村さんが10年前に伊豆山に移転しており、その方が子ども健康調査活動にも協力しているつながりから、現地の様子を聞いていました。「どうしても避難所にいけない人（介護や、家庭の事情がある方）に対して、支援物資の協力をお願いしたい。行政だけでは対応できない人たちに支援してほしい。」と要望があり、7月14日に避難所にどうしてもいけない約50人を対象とした支援物資の提供活動することにしました。

支援物資の調達に今まで東日本大震災、常総市水害、岩手県台風災害、熊本震災で共に活動してきたフードバンクちばに協力をお願いし、レトルト食品、缶詰、水等を提供いただき、常総生協からはトイレトペーパー、キッチンペーパー、ティッシュペーパー、マスク等の生活用品を準備して1.5tトラックに載せて7月14日現地に行ってきました。



(元常総生協職員の上村さん)



(フードバンクちばから支援物資の協力頂きました)



(左から：被災地に向かう伊原（職員）、伊藤（専務理事）)

### ○熱海 土石流 動画分析からみる被害範囲

静岡県熱海市で起きた土石流による災害の場所はツイッターに投稿された複数の映像や画像の撮影場所を分析したところ、熱海市伊豆山地区の東西およそ600メートルの範囲で、ハザードマップ上の「土石流危険渓流(※)」のエリアとほぼ重なる場所でした。ツイッターなどに投稿された8件の動画と画像を、映っていた建物などから方角や場所を分析したものが右の図です。

土石流が発生したのは、相模湾に面した背後に山地がある険しい地形の地区で、住宅が数十軒密集し、ホテルや旅館なども点在しています。

JR熱海駅から北北東におよそ1キロの場所にあり、この地区の海側にはJR東海道本線と東海道新幹線の線路もあります。土石流は「熱海ビーチライン」付近まで達したとみられ、撮影された場所は、標高が最も高いところから低いところまでの距離で、およそ600メートルの範囲となっていました。

※「土石流危険渓流」は土石流が発生するおそれがあり、住宅等に被害を与えるおそれがある渓流で、都道府県が指定しています。



### ○本当に必要な人に支援を！

現地では安否不明者の確認・土砂の処理に、行政やボランティアの人を割いており、被害を受けている人への対応が遅れている状況だと分かりました。実際は子ども達の学校も避難所になっており、被災している人たちの心のケアが必要な状況です。また、今回の土砂災害は範囲的には狭いですが、車でいつもは10分でいけるところが1時間以上大回りしないと行けない。車がある人は何とかできるが、車を使えない人にとっては買い物難民状態になっていました。災害が起きた後しばらく悪天候が続いており、いつまた同じような災害が起きるか？など、様々な障害

や・不安の声がありました。

行政で対応出来ていない所を、上村さん（元職員）が地域の農家さんと協力しながら、情報のとりまとめ役をしてくれた為、今回の支援も何が必要か？どこに行けば良いのか？を教えてくれ、活動することができました。

### 〇地元の農家さんが倉庫を貸出してくれて、地域の被災している人の為に配ります！

土石流付近は未だ入れないのと、避難所にはコロナウィルス関係で立ち入れないため、地元の農家「原農園さん」の協力を頂きました。

地域の被災している人の為倉庫を貸出してくれて、今回生協から持ってきた支援物資を置かせて頂くことになりました。農園の原さんはとても気さくな方で、明るい人でした。被災で家を失った人もいる中で、地域にこうした人格者がいることは、とても希望に感じられると思いました。残りの支援物資は上村さん宅に置かせて頂き、そこから必要な方へ届けてもらう事になりました。



(左から：元職員さんの息子さん、原さん（原農園）、職員の伊原さん)



(倉庫に運ぶ職員の伊原さん)

### 〇現地の状況

- 災害当日は山鳴りがして防災のアナウンスが聞こえなかった
- 小学校が避難場所になっていたが、電気・ガス・水道が止まっていたため蒸し暑く、とてもじゃないがいられる場所じゃなかった。
- 情報格差があった。電気も止まってしまったため、テレビもつかず、ラジオもつながらない状況になり、頼りになるのがスマホでのTwitterなどのSNSでの情報収集。市のホームページはタイムラグが生じていて情報の鮮度が低い。

### 〇今回の支援で分かった事

- ❖ 避難場所の電力確保
  - 避難場所に指定される小学校等の公共施設の災害対策環境の整備が必要だと思いました。特に夏場は熱中症の危険もあるため、冷暖房を動かす為の電力の確保をどうしていくか？だと思えます。
- ❖ 情報収集
  - 情報格差が生じやすく、東日本大震災の時もSNSが情報収集に強かったと思います。いざという時に頼りになるツールであり、ネット上での人とのつながり方も大事な「つながり」だと思えます。

### 〇今後の復興

- 熱海市は観光産業の街。昨年からコロナウィルスの影響で街全体で大きな痛手を負っているタイミングで今回の災害が起きたという状況です。観光産業を復興させるにはまだまだ時間がかかると思われます。
- 今後も定期的に連絡をとりながら、「助けて」の声に答えられるような支援活動を生活協同組合として行動していければと思います。

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号473 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしく願い致します。

前回のNewsletterにて、脱プラスチック学習会の開催報告をおこないました。プラスチックゴミの世界と日本と現状、マイクロプラスチックについて説明をしました。今回は日本のプラスチックゴミが多い理由と環境問題の関係性について述べていきます。

## プラスチックと共に生きる日本人!?

日本海域のマイクロプラスチックは世界平均の27倍、1人当たりのプラスチック廃棄量は年間/37kg、この37kgはアメリカ(年間/45kg)に次いで第2位です。

### ①日本が海外から輸入している服…37億枚、国産は1億枚

安く入手できる服は確かにありがたいのですが、今海外から輸入しているものの多くが、化学繊維=プラスチック繊維です。アメリカでは1人当たり年間約37kgの衣類を破棄しているというデータがありますが、日本は焼却施設が充実しているので、繊維製品を燃やしているという現状です。逆に焼却施設が不十分な国はゴミとして捨てられています。



「燃やしてしまえば問題ない!」という訳では決してありません。そこに含まれる添加物や環境ホルモンを排出しているとも言われています。

②年300億枚のレジ袋やストロー等、大量の使い捨てプラスチックが消費されています。1本のストローが分解されるのは500年かかるとされています。

③スクラブ系洗顔フォーム、歯磨き粉、日焼け止め、ファンデーション等マイクロプラスチックが粒子状=マイクロビーズが大量に含まれています。(例)洗顔剤1個に0.1mmのマイクロビーズが数十万~数百万入っています。こうした、日用品のマイクロプラスチックの販売量は19万トンといわれています。※2016年データ：世界総販売量に対し8%を占める

アメリカでは1日5億本のストローを消費していますが、来年からプラスチックストローの使用を禁止する予定です。前回のNewsletterの通り、EU・中国・世界1位のアメリカでも本格的な脱プラスチックの施策を始めていますが、日本はまだまだ遅れており、自分たちの身の回りの生活もプラスチックで溢れていることが分かります。

## 海洋に流れるプラスチックゴミと環境問題について

日用品のマイクロビーズや化学繊維(マイクロファイバー)は生活排水として流れ、下水処理を抜けて川や海に流れます。こうした消費が多いことも問題ですが、「森林の荒廃が洪水を引き起こし、生活ゴミを川から海へ流している」という事も近年問題視されています。

森林が7割、さらに急流が海のすぐそばまで近づいているという日本の国土の特徴により、大雨ですぐに生活エリアから川へ、川から海に流れてしましますが、実はそれを防いでいたのが「森林」です。日本の森の多くを占めるスギやヒノキ。過密になったスギやヒノキを適切な生育状況にするため伐採する「間伐作業」が重要なのですが、ここ30~40年で海外から安い木材が輸入され、林業は衰退の一途を辿っています。

《間伐することのメリット》

- ①スギやヒノキが深く根を張れる
  - ②草木が生えやすくなり栄養豊富な森になる(腐葉土が入り、**保水力が増す**)
  - ③スギやヒノキのまっすぐな成長を促す
- = **倒木や土砂崩れ・洪水の災害を防ぐ**

放置された森は、腐葉土による水の吸収ができなくなり、土への浸透量が少なく、結果的に地表流として多くの水が流れ落ちます。結果、私たちの生活エリアのゴミが川→海への流れやすくなっているのです。

ここ数年で「線状降水帯」という言葉が広まりましたが、古記からもゲリラ豪雨はるか昔から発生していたとされています。海洋プラスチックの問題と日本の環境問題は実は密接につながっています。

※次回は身近にある脱プラスチック術、常総生協の取組などを改めてご紹介します。

